

# かわねほんちよう 議会だより

第17号

平成22年2月発行

発行/川根本町議会  
編集/議会だより  
編集委員会

## \*ちくじ\*

- 第4回定例会 .....2~3
- 委員会報告 .....4
- 一般質問 .....5~12
- 意見書 .....13

# (12月会議) 報告

(初日 12月8日 午前9時より)

## 補正予算

### ◎一般会計(第四号)

1億3千596万2千円を追加して補正後の総額を61億9千740万3千円とする。

### ◎国民健康保険事業特別会計(第二号)

主な内容は新型インフルエンザ予防接種の助成費や私立幼稚園経常費補助の増額、台風18号により被災した林道平田線、林道家山線の復旧事業に係る経費の追加、人事異動や期末手当減額等による職

員人件費などの補正です。賛成多数で可決しました。鈴木議員は職員給与の引き下げは不況に影響を及ぼすとして反対しました。

### ◎介護保険事業特別会計(第二号)

職員人件費の減額などに伴う補正です。(全員賛成で可決)

### ◎温泉事業特別会計(第一号)

151万4千円を減額して補正後の総額を9億5千621万3千円とする。

職員人件費の減額補正です。(全員賛成で可決)

### ◎簡易水道事業特別会計(第一号)

59万4千円を追加して、補正後の総額を2億4千489万4千円とする。

### ◎静岡地方税滞納整理機構規約の変更について

滞納処理機構で行う

する。

職員人件費の減額補正と、地名簡易水道の障害木伐採搬出の委託料の追加補正です。(全員賛成で可決)

### ◎町道路線の認定について

国道362号上長尾バイパス一部開通に伴い、梅島―高郷間旧道を町道にして町で管理する。(全員賛成)

### ◎公の施設の指定管理者指定

3年の契約が満了した5つの観光施設について。(全員賛成)

### ◎奥大井自然休養村管

指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。

## その他

### ◎静岡地方税滞納整理機構規約の変更について

滞納処理機構で行う

事務に、職員の課税事務等の研修、軽自動車税・自動車取得税の申告書の受付や処理を追加する。(全員賛成)

理センター(川根本町まちづくり観光協会会長望月孝之)②寸又峡直売所③寸又峡温泉野天風呂(寸又峡温泉美女づくりの湯観光事業協同組合代表理事望月孝之)④三盃直売所(奥大井ふるさと特産振興会会長森照信)⑤接岨峡温泉会館(接岨区長大石博人)

◎福祉センター、高齢者デイサービスセンター、生きがい対応型デイサービスセンター(高郷、瀬平、奥泉)指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。

①奥大井自然休養村管指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。

①奥大井自然休養村管指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。

①奥大井自然休養村管指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。

①奥大井自然休養村管指定する議案を社会福祉協議会に、創造と生きがいの湯(小長井)を本川根シルバー人材センターに指定する議案は、3年間の決算報告書の繰越金が次年度に計上されていないことについての答弁があまりなかったため、採決が最終日に延期されました。



完成間近のさゆり幼稚園



地名簡水の工事予定地



寸又峡野天風呂・美女づくりの湯

# 平成21年 第4回定例会

(最終日 12月17日(木))

最終日の17日は傍聴者が21名詰めかける中、午前9時より8人の議員による一般質問が午後3時50分まで行われました。その後、延期された議案と、追加上程された議案の採決が行われました。

## 人事案件

○副町長の選任について  
現総務課長の小坂泰夫氏が賛成多数で同意されました。  
(反対者 原田議員)  
○教育委員会委員に任命について

現企画課長の羽根田泰一氏を選任する議案には、人事案件のため討論なしで高畑・鈴木・中澤・小藪・原田・太田議員が反対し、否決されました。  
(賛成者 市川・森・中田・山本・中野議員)

## 追加分

○奥大井もりのくくの指定管理者に(株)時之栖(すみか)が指定されました。

これは運営計画について、申請のあった4社によるプレゼンテーションが行われ、それを基に全課長10名による審査委員会(株)時之栖が選ばれ、全員賛成で可決されました。  
指定期間は平成22年4月1日から平成27年3月31日までの5年間の契約です。

## 最終日に延期された議案



指定管理者が4月から時之栖に代わるもりのくに

○社会福祉協議会会長森田愛子氏より申請のあった次の福祉施設の指定管理者の指定も全て可決されました。なおこの議案については申請時から議案が上程されるまでの間に同協議会の会長が森田愛子氏より芹沢徳治氏に変更されています。

○川根本町福祉センター(施設名・本川根福祉センター、老人福祉センター憩の家いずみ)



本川根福祉センター

○川根本町生きがい対応型デイサービスセンター(施設名・中川根高齢者デイサービスセンター、本川根高齢者デイサービスセンター)



高郷デイサービスセンター

○川根本町生きがい対応型デイサービスセンター(施設名・老人福祉センター憩の家いずみ(奥泉)、高齢者生きがいの郷(高郷)、高齢者むつみの郷(瀬平))

○川根本町創造と生きがいの湯の指定管理者について  
本川根シルバー人材センター(理事長梶山英司氏)に決まりました。



創造と生きがいの湯





小藪侃一郎議員

問

- 町政を担う信条
- 地域の元気再生の具体的施策
- 国・県の事業仕分けと本町の対応
- 青部バイパスの早期完成を目指せ

**質問** 選挙直前に自民的な施策があるか伺います。

**町長** 選挙に臨むに当たってお茶の需要が大幅に減退し先行きに不安を抱く茶業関係者、経営に夢を失っている事業者、公共事業の大幅削減で経営悪化に苦しむ建設業者、景気後退で操業の縮小を余儀なくされる製造業者、宿泊客の減少に悩む観光業者、雇用調整に對し不安を抱く従業員などを考え、何よりも地域の元気再生に取組まなければいけないと考えました。しかし、今日の地域の置かれた状況を見ると、世界的、全国的に景気が落ち込んでいる中で、地域産業不振で、単純に処方箋を描ける状況ではありません。そのためには現場を踏まえ、町民の皆様が暮らしの現場で何を考え、何を困っておられるのか、そこから具体的に何を

するのと考えていきたく思っています。

**質問** 国・県の事業仕分けによる、廃止・改善等による本町への影響等に対し情報収集しどのような検討をしているか伺います。

**町長** 国・県とも仕分け結果を22年度予算編成に生かしていくか検討中でその情報を収集し、関係機関と連携を取り合い、編成していきたいと考えております。

**質問** 川根本町でも事業仕分けの計画はあるのか伺います。

**町長** 内部評価だけではどうしても評価が甘くなりがちになる、できれば外部評価も取り入れていきたい、今後行革推進委員会等で検討していきたい。

**質問** 地域の元気づくりに地域の情報の共有化が大切だ、定期的な情報交換の場が必要不可欠と考えます、地場

産業定例会を提案したい、伺います。

**町長** 厳しい状況の中で、組織の内部だけの議論ではなかなか新しい策も見えてこない部分もあるかと思いつるので、幅広い横断的な、あるいは異業種交流的な集まりも必要と



青部側から

町が合併しながらその真ん中を結ぶ一番大事なのが活発になり切らない部分の大きな要因にもなっている。国、県にもお願いしている。今後とも一日でも早い完成に向けて努力していきたいと思えます。

答

- 軸足は町民に置き、町民目線ですすめる
- 地域の中に潜在する資源を磨いていく
- 国・県と連携を取り合い予算編成したい
- 橋完成平成23年度、その後トンネルは2、3年の工期が必要



山本信之議員

●川根高校存続について

●役場職員について

問

質問

町の宝と言える子供たちが健全に育つ教育の場川根高校の存続はもちろんですが、廃校となれば我が川根本町の活性化はどこへ行ってしまおうのでしょうか。今、第一歩として、行政



川根高校の授業風景

と自治会、教育委員会、他の代表者の方々と、地域の高校は地域で守ろうの会を発足し署名運動を展開する運びとなっておりま。来る平成27年以降の県立高校の統廃合見直しになつてからではもう遅いと思ひます。行政としてどのようにお考えでしょうか。

象にはなつてはいないとはいえ、現に過疎化は進み、地域経済の衰退傾向にはなかなか歯どめがかからないというような状況の中では、最悪の事態をも想定し

つ対処していかなければならぬと思ひます。地域の高校は地域で守ろう会を発足させ、存続に向けて運動を展開しようということでありま。その運動の動向にも大きな期待

と関心を寄せながら、できる限り支援はしていかねばならないと考えております。川根高校との連携を深めながら考えていきたいと思つております。同時に行政としては、川根高校の将来に不安を生じさせないような活

力ある地域づくりを指さなければならぬと考へておりますので、川根高校が存続できるような環境づくりとして、地域経済の活性化のために努力をしていきたいと思つております。

質問

若い役場の職員について、個々に町を活性化する意見を持っていると私には見えま。町長、議員を含めて活発な議論の場をつくつたらどうでしょうか。もつと十分な発言の場を与えたいと思へます。町長はどのような考へかお聞きいたします。

職員を取り組む意欲を高めていくために、提案を含めた能力、業績に対する適切な評価など、新たな人事評価システムの導入も進めていきたいと考へております。若い有能な職員の意見を十分聞けるような機会を持ちながら努めていきたいと思ひます。

まず役場へ訪れた町の人たちに、おはようございます。こんにちはのあいさつを笑顔ですること。これが町を明るくする第一歩だと思ひます。



南麓祭打ち合わせ

答

○川根高校が存続できる環境づくりに努力

○職員の評価システムを導入





原田全修議員

●合併4年を過ぎ第2期に入った川根本町  
 において、「この町を変えよう」という  
 町長公約の新たなまちづくりを町民は期  
 待している。取組みの重点施策を伺う

問

**質問** 所信の具体的取組みの姿勢を伺う。  
**町長** 「新しい時代の対応」では、空港、大井川、南アルプスを軸とした広域的な連携強化によるまちづくりと、この地を知事の言うところのグリーンティール・ガーデンと位置づけた事業展開を行いたい。「地域の元気再生」では、景観、お茶、温泉、人情等々、この地域の持てる強みを総動員して川根本町そのもののブランド化を図っていきたい。知事からご提案を頂いた中国浙江省竜泉市との姉妹都市提携は、川根茶のブランド力を高める1つの進め方だと考える。「まちづくりは人づくり」では、現場へ足を運ぶことを強調した。次の世代を担う若者を育てるために、子育て環境の改善、結婚に結びつくような場づくりを行う。

**質問** 「林業及び木材産業の振興」はどうか。  
**産業課長** 木材生産を拡大して林業雇用者としても林家としても生活できるよう、また、木材業の振興も視野に入れて県や周辺市町と連携した施策に力を入れていきたい。  
**質問** 「小中学校の体制見直し・統合」という課題への取り組みはどうか。  
**教育総務課長** 児童生徒数の減少の傾向の中、学校統合への検討は避けて通れない重要課題であることは認識している。並行して廃校とする施設の活用についても結果を出していく必要があると考えている。

**質問** 青部バイパス完成が25年度以降になつてしまうということを確認しているようではまずい。青部バイパスはどうしても必要なんだという観光立町のコンセプトを明確にした取り組みが必要であると思う。  
**総務課長** 11月、政権与党である民主党の方へ道路の要望書を出させて頂いた。順位として1番に青部バイパス、2番に上長尾バイパス、3番に富士城バイパスとした。  
**質問** 町営バス南部路線の運行管理業務の委託契約については、低価格を提示した東京の(株)武州鉄道が落札したが、この低価格競争の結果、今まで町営バス運行で生計を立てていた2人の若者は職を失った。若者の雇用や定住化が阻害されるような事業の発注の仕方を改善すべきと思う。

**総務課長** 平成20年度から「低入札調査制度」を導入し、価格競争による事業の品質低下防止等に努めている。  
**質問** 町総合計画では、22年度から基幹作業道の開設が3件(徳山から下泉にかけての山林、2年間で1億8千万円)登場する。木材産の活性化という本来のところに事業費あるいは研究費を計上する必要があるか。  
**町長** ご提案についてはそのとおりだと思ふ。林業の振興について前向きに話し合っていけるような機会を設けていきたい。



当地域が誇る 川根茶グリーンティガーデン

答

- 島田市ほか周辺地域との面的な連携を深める
- 川根茶のブランドをブランドとして販売促進
- 役場の職員は暮らしの現場で住民と触れ合う
- 5年、10年先を見据えた医療介護体制を作る



市川昌美議員

問

- 役場の事務組織及び機構について
- 農林業特に茶農家の救済を
- 地域間の格差是正を図れ

**質問** 昨年12月11日、課の設置条例の一部が改正されて、5課にいた課長の数が観光課1人になってしまった。同規模団体の平均職員数は130人ではありませぬ。ことし11月1日現在の人口数86666人では61人オーバーしています。合併で肥大化した役場組織が町の財政を食い尽くす危険があるが。

**町長** 事務組織及び機構については、合併時本庁7課1局1室、総合支所5課が設置されましたが、この組織が協定項目としてはなく、新町の事務所の位置の確認事項を踏まえ、本庁及び総合支所の機能の確保ができるよう基本としたもので、今後においても、協定項目に沿い、新町建設計画を踏まえた総合計画に沿った行政運営を進めてまいりたいと思っております。

**質問** 合併から4年、住民サービスの低下、格差の拡大が問題となっているが。

**町長** 住民サービスの低下の中で、町民の健康づくり部門についてでございますが、各種検診、相談事業、健康づくり教室などの事業を行っております。合併後、地域の状況に際し、対象者が少ない等の事情に応じ、会場の統合などを行い実施しておりますが、合併前とほとんど変わらない状態で実施されております。

**質問** 合併後の公共料金を高めに設定した理由はなぜか。

**町長** 水道料金については、合併前の旧町単位の施設の整備状況や借入金の高が大きい異なっていたため、合併後も1町2制度により別々の料金体系で管理運営をして来ました。旧中川根区域につきま

としては、施設の改良整備がおおむね終了しましたが、借入金残高が多くあり、これから返済のピークを迎えます。平成21年度5月分から水道料金の改定をお願いし、健全運営をめざします。

**質問** 茶業を含め農林業の経営は限界に達しております。品種改良、生産時期の調整、販路拡大、コンクール方式によるブランド化、茶価の低迷する中、過去20数年あらゆる手段での対応も茶農家の救済には程遠い状況であり、昨年までは大井川流域が悪くても他の産地は息がついたのですが、今年も県下全般で一番茶の荒茶の価格がキロあたり2千円割れが県

下全体の3分の2に達したといえます。この疲弊した農家の抜本的な救済策として、産物転換も見すえた抜本的な対策独自のプロジェクトを立ち上げる時期と考えるが。

**町長** 現在県下でも放棄茶園がふえています。そういうことから、県でも全国で6位といわれる放棄茶園の調査等から始まって、将来農業をどうするのか。川勝知事も食と農の改革、これを3本柱の1つとして据えて、今取りか



茶園風景

答

- 協定項目に沿った行政をめざす
- 県の農業改革に方向性を求める
- 住民サービスは変わりなく実施している



太田 侑孝議員

- 行財政改革への取組み姿勢について
- 前町長の諮問した6つの「公の施設のあり方」の取組み状況について
- 行政評価システムの導入について

問

**質問** 前町長が行財政改革推進委員会に諮問し、答申を受けた6つの「公の施設のあり方」について、答申の進捗状況と今後の取組みについて伺う。※6つの公の施設（1）資料館やまびこ（2）



川根本町行政改革推進委員会

文化会館（3）B & G センターはほぼ答申に沿った取組みがなされているが、他の4施設は、現在関係者への説明や答申内容の調査、検討にとどまっている。

平成22年度から本格的に取組みます。システムの流れは、事

**再質問** 現大綱、集中プランの計画は、平成22年度迄の5ヶ年計画になっているが23年度以降の次期計画の予定は。

**町長** 引き続き行財政改革を進める。

6月号や町ホームページで全文掲載によりお知らせした。諮問した答申に沿った形での施設のあり方について取組んでいく。進捗状況については、B & G 海洋センター、農林業

**町長** 一般的に行政評価とは、政策、施策及び事務事業について客観的な数値、または政策指標を用いて有効性や効率性を評価し、その結果を行政運営の改善につなげていく制度とされている。当町でも行政運営の改善手段として、また行政側の意図やその結果をわかりやすく説明する手法としての行政評価システムに平成22年度から本格的に取組みます。システムの流れは、事

共経営」に取り組む。

21年2月に取りまとめられた。答申の内容は、広報かわねほんちようジで全文掲載によりお知らせした。諮問した答申に沿った形での施設のあり方について取組んでいく。進捗状況については、B & G 海洋センター、農林業

から導入予定の行政評価システムについて、基本的な考え方と進め方を問う。

業務評価シートと呼ぶ専用のシートに事務事業ごとに作成し、評価方法は、事後評価とし、前年度の決算により当該事業を評価することになる。その評価は、内部評価と外部評価も取り入れていかなければならないとされている。

**質問** 町行政改革プランへの町長の姿勢と、継続の考え方を問う。

**町長** 今後とも行財政改革大綱、集中改革プランの継続と、行政に企業経営的な理念と手法を導入して、効率的で質の高い行政サービスの提供を行う「新公共経営」に取り組む。

21年2月に取りまとめられた。答申の内容は、広報かわねほんちようジで全文掲載によりお知らせした。諮問した答申に沿った形での施設のあり方について取組んでいく。進捗状況については、B & G 海洋センター、農林業



川根本町文化会館

答

- 引き続き、行財政改革大綱、集中プランは進めていく
- 答申に沿った形での施設のあり方について取組んでいく
- 行政運営の改善手段の一つとして、22年度より本格的に取組む。



鈴木多津枝議員

問

- 子どもの予防接種補助の拡大を
- 介護施設の整備・拡充について
- 官行造林は購入せず無償譲渡の交渉を



子どもたちの健康を守るために

**質問** 季節型インフルエンザ予防接種にも子供への補助創設を。

**町長** 75歳以上は補助があり70%近い接種率で効果も期待できる。子どもは集団の場が多く感染拡大への不安解消や子育て支援、経済支援の観点から前向きに検討したい。

**質問** 若者定住住宅建設で子供が増えている地名地区の休園中の保育園の再開を。

**町長** 地名・瀬平・久保尾地区の12月現在

の未就学児童は51名で、うち保育園児31名、幼稚園児2名。当町は待機児童もなく保育園は定員割れで、現在未就学児228名が5年後には195名に、10年後には174名になると推測され、施設の規模、管理運営など財政面も踏まえ、再開には慎重にならざるを得ない。高齢者も含めた活用を検討したい。

**質問** 特別養護老人ホームあかいしの郷の待機者解消に向けた増床・増築、グループホーム、ケアハウスなどの可能性は？

**町長** あかいしの郷に確認したところ、待機者数は57名、うち32名が即入所希望。要介護1が5名、2・3・4が各16名、5が4名で、状況は自宅で待機が31名、子どもの家等4名、老健施設や病院21名、別の特養1名。今

のところ増床の計画はないが、町からの要望があれば検討したいとの返事だった。町は第4期介護保険事業計画で元気な高齢者が多いまちを目指し、高齢者が自らの健康を守り生きがいのある生活を送れるよう自立支援と介護予防の推進を図っているが、将来必要となるサービス体制は計画的に整備し、介護保険事業の円滑な推進を図りたい。待機者解消策も必要と考えている。



待機者が増えている特別養護老人ホーム「あかいしの郷」

**質問** 大井川鉄道青部駅にトイレを。

**町長** 前町長も答えているが、駅だけで考えるのではなく車で通る人の利用も考えて、青部バイパスのルートや周辺整備構想が確定したら建設したい。青部区からも早く欲しいと要望が来ているが、せっかく造るのだからもう少し我慢頂き、道路との利便性を考えたい。

**質問** 毎年300万円もの官行造林の権利購入の中止を。

**町長** 今年度の購入予定地は5年生ヒノキ単層林6ヘクタールと天然林14ヘクタールで、一部が大札山ハイキングコースになっている。今後も同地域を優先的に買い続け、周辺の町有林と一体的にFSC森林認証林として積極的に管理したい。国へは無償譲渡を要望しているが、今後購入を予

定している長尾川流域は水源涵養林として飲食施設もあり、購入して健全な管理が必要と現場の要望もある。

答

- 前向きに検討したい
- 待機者解消は必要
- 購入して積極的に管理したい



中澤智義議員

●お茶消費拡大の一案？

●拠点として公の施設の使用は出来るか？

問

質問

私はお茶の振興には、お茶の消費拡大をする策が必要かと思っています。地産地消をはかる一策を提案し行政の考えを伺います。

本町には、年110万人の観光客が訪れます。この団体や個人で訪れる観光客に、お茶の体験コースを仕組み、毎日茶摘体験の出来る観光茶園や、茶の製造見学が出来るとして、茶の知識や生産者の交流の場を増し、新しいお客を作っていく仕組みをつくって、仕掛けてはどうでしょうか。

町長

最近の茶業界を取り巻く状況は厳しく、年々リーフ茶の年間消費量が減少傾向にあり、今後も県内外の新産地との産地間競争や流通、消費スタイルの變化によるリーフ茶の消費低迷等の影響もあり、地域茶業を取り巻く課題は大きいと思ってい

ます。

そうした中、茶の消費拡大の為の提案でございました。観光客が茶園でお茶摘みの体験したり、あるいはお茶の見える工程を見学できるという御提案という観光農園型グリーンツーリズムについて、提案の観光農園型グリーンツーリズムについて、現在耕作放棄地対策の中で市民農園等実施可能でありますので、協力いただける農家の方、共同茶工場などの地域協議会を立ち上げて実施いただく手法であり、川根茶の販路拡大の一つの方法であると思

ます。なお茶業振興協会においても3年目になります。産地そのもののよさをアピールする為、産地である本町を訪れ体験等を通じてPRを行うグリーンティーリズムツアーを実施しており、



茶茗館と茶園

質問

私の策は当町に訪れる団体旅行のコースの中に取り入れられるよう仕組みを作り、観光業者に仕掛ける為、大型バスの駐車場やトイレの施設が整っている所が拠点として必要で、公の施設の使用が可能かどうかお伺いします。

町長

公の施設は、それぞれ目的があつて建てられています。その目的の中でかなう利用方法は当然考えられると思っております。グリーンティーリズムということでは、試行的にツアーを、試行的にだと思えますけど、やっていると例もござります。

川根茶のファンを増しながら今後とも積極的にお茶の消費拡大に努める活動に取り組んでいきたいと考えています。提案の、お茶を観光の中にもっと組み込んで、地産地消という意味の中で、お茶の購買拡大を図っていきたくて、もう少し詳しいお話しをお聞かせ願って、できるものなら前向きに取り組んでいきたいと思っております。

答

○お茶の消費拡大に取り組む。

○目的の中で、利用出来る。

# 意見書

12月議会の最終日に、全員賛成で可決された意見書です。  
早速、関係機関へ送付しました

## 電源立地地域対策交付金制度の交付期間延長等を求める意見書

電源立地地域対策交付金の水力発電施設周辺地域交付金相当部分（水力交付金）は、水力発電ダムに関わる発電用施設周辺地域住民の福祉の向上と電源立地の円滑化に資することを目的に創設されたものであり、関係市町村では、この水力交付金を活用し、防火水槽や防災無線等の公共施設の整備、診療所や保育園の運営費等への充当による住民生活の利便性向上を図っているところである。

よって、国におかれては、平成22年度末をもって多くの関係市町村で交付期限を迎える水力交付金について、過去30年間にわたる交付実績や、今後とも安定的な水力発電を維持する必要性があること等を考慮の上、平成23年度以降は恒久的な制度とすること、及び原子力発電交付金との格差を踏まえた交付金の最高限度額及び最低保証額の引き上げなど交付条件の改善や事務手続きの簡素化を図られることを要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成21年12月17日 静岡県川根本町議会

## 新たな過疎対策法の制定に関する意見書

過疎対策については、昭和45年以来、3次にわたる特別措置法の制定により、過疎地域の生活環境の整備に一定の成果を上げたところです。

過疎地域は、我が国の豊かな自然や歴史・文化を有するふるさと（の）地域であり、都会に食料の供給、水資源の供給、自然環境の保全と、森林による地球温暖化の防止に貢献するなど、多面的・公共的機能を担っている。

過疎地域が、住民にとって安心・安全に暮らせる地域として健全に維持されることは、同時に、都市をも含めた国民全体の安心・安全な生活に寄与するものであるから、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させることが必要である。

よって、新たな過疎対策法の制定を強く要望する。

平成21年12月17日 静岡県川根本町議会

## 公立病院の維持・存続に関する意見書

近年、公立病院の現況は、医師、看護師不足による過重な労働を強いられ、住民の生命と健康にかかわる安心・安全の基盤が揺らいでいます。

一病院、一自治体の努力だけでは限界で困難な状況です。地域医療の厳しい現状を受け止め、下記（左記）の事項について早急に対処されるよう強く要望する。

### 記

1. 地方の公立病院への医師の充足配置について、絶対数が確保されるよう速やかに必要な措置を講じること。
2. 地域医療を担う自治体病院の安定した経営が確立できるよう、必要な財政支援措置を講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成21年12月17日 静岡県川根本町議会



# 議 会 日 誌

11月

- 5日 町議会広報研修会
- 11日 川根地域広域施設組合  
議会定例会
- 18日 まちづくり基本条例策定委員会  
講演会
- 24日 議会運営委員会  
全員協議会
- 30日 第3回臨時会



まちづくり基本条例策定委員会講演会



知事広聴「平太さんと語ろう」

12月

- 2日 議会運営委員会  
全員協議会
- 3日 知事広聴会
- 5日 市町村対抗駅伝大会
- 8日 第4回定例会初日
- 17日 第4回定例会最終日

## 3月議会の予定

3月3日(水)  
9:00～ 本会議

4日(木)～11日(木)  
9:00～ 予算特別委員会

16日(火)  
9:00～ 本会議(一般質問)

※本会議はどなたでも傍聴できます。  
ぜひお出かけください。

予定が変更になる場合がありますので、  
事前に議会事務局(56-2229)へお問合せください。

平成二十二年、新しい年を迎え、皆様お元気でお過ごしのことと思います。合併してから四年が過ぎました。現在、青部、藤川間の道路及び橋の工事が行われておりますが、早急に完成するよう行政及び議会が一丸となって県に要望したいと思います。

今後、町政がスムーズに運営されますように、又、町民の皆様が健康で過ごすことができますよう、気を引きしめ頑張つて行きたいと思います。

(N・Y)

## 編集後記

## 編集委員

(第一常任委員会)

委員長 中澤智義  
副委員長 山本信之  
委員 板谷信之  
委員 鈴木多津枝  
委員 市川昌美  
委員 森川照信



議会だより編集委員会